

経 営 協 議 会 報

総務部総務課

日 時 平成26年6月18日(水) 13:30～16:35

- * 審議に入る前に、学長から、学外委員の紹介の後、理事・副学長、監事の紹介があった。
- * 引き続き、学長から、琉球大学経営協議会規程第5条第3項に基づき、議長代行に西川理事を指名する旨発言があった。

審 議 事 項

(1) 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

石原副学長から、平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について、資料に基づき説明があった。引き続き、石原副学長から、今後、教育研究評議会及び役員会の審議を経て文部科学省へ提出する予定である旨発言があった。

審議の結果、了承された。

なお、審議に当たって、委員から主に次のような発言があった。

- ・国立大学の今後の在り方は、地域活性化の中核的拠点である必要がある。
- ・地域社会のシンクタンクとして、様々な課題を解決する地域活性化機関であっていただきたい。
- ・新しい取組については、PDCAをしっかりと回し、どんなアクションを起こして、どんなことが結果として出たのかというようなことを、報告書にしていなければならない。
- ・大学COC事業が採択され、去年、今年とすばらしい一歩を記しているのので、是非、アピールをしていただきたい。
- ・大学のガバナンス改革の推進について、社会は大学と積極的に関わり、学長のリーダーシップを後押ししていくことが、文部科学省の大学改革プランの中でも触れられている。県も沖縄経済界も是非、大学改革を後押ししていただきたい。
- ・県庁としては、琉球大学から人材を輩出してもらっている。行政側も琉球大学をしっかり支えていきたい。
- ・行政もスピードを求められる時代になり、県の職員も再教育が必要な時代に入ってきている。サテライトキャンパスの設置に伴い、琉球大学と連携していきたい。

(2) 国立大学法人琉球大学職員給与規程の一部改正について

西川理事から、教育学部附属小学校及び附属中学校に教頭を置くことに伴う国立大学法人琉球大学職員給与規程の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(3) 平成27年度概算要求事項(案)について

西川理事から、平成27年度概算要求事項(案)について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、西川理事から、要求順位等については学長に一任いただきたい旨発言があり、併せて了承された。

(4) 平成25年度決算(案)について

西川理事から、平成25年度決算(案)について、資料に基づき説明があった。引き続き、西川理事から、今後、役員会へ諮った後、監事・監査人の監査報告を受けて、文部科学省へ提出する予定である旨発言があった。

審議の結果、原案どおり了承された。

(5) 国立大学法人琉球大学業務方法書の変更について

西川理事から、国立大学法人琉球大学業務方法書の変更について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

報告事項

(1) ミッションの再定義について

西田理事から、ミッションの再定義の現状について、資料に基づき報告があった。なお、委員から次のような発言があった。

- ・琉球大学はもっといろいろな特色・強みがあるのではないかと感じた。医学分野では、ひとつの分野に限らず、いろいろなことを勉強できたので、研修を受けたり、学んで良かったという本土での若い先生の話をよく聞く。
- ・工学分野では、アジア地域の航空機の機体整備というものを取り入れることについて関係する企業や機関において新たな動きが始まっている。琉球大学の工学系においても、こういうことについて、取り組んだらいいのではないか。
- ・教員養成については、沖縄は、多様性を認めるダイバーシティという点において、すばらしいものを持っている。一方で、本土で就職するとすぐ戻ってきてしまったりすることも多く、どうすれば強い子に育つことができるのか、もっと良いところを伸ばしていく教育につながればすばらしいと思う。
- ・理学、農学分野では、今の内閣では、JA改革というものが打ち出されている。漁業や農業では、物流ハブを用いて何ができるかということも、大きな研究の対象になるのではないか。
- ・観光科学分野については、沖縄にはすばらしい観光資源がある。観光産業科学部でマネジメントを学べば、日本の観光産業界において最もステータスのある学部を卒業したと言えるくらいのことができると思う。
- ・県や沖縄総合事務局、他の大学とよく意見交換をして、今までは、何ができて何ができなかったのか、琉球大学としては何ができるのかという観点からも議論すれば、もっとすばらしい角度からのミッションの再定義ができるのではないかと思う。そうすれば、国を引っ張っていく国立大学改革というものにつながるのではないか。

(2) 平成26年度企画経営戦略会議について

学長から、平成26年度企画経営戦略会議での検討状況について、資料に基づき報告があった。

(3) 平成25年度卒業生の進路状況について

富永理事から、平成25年度卒業生の進路状況について、資料に基づき報告があった。

(4) 一般社団法人大学コンソーシアム沖縄の設立について

学長から、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄の設立について、資料に基づき報告があった。

(5) 琉球大学サテライトキャンパス（宮古島キャンパス・石垣キャンパス・那覇キャンパス）開設式典について

外間理事から、琉球大学サテライトキャンパス（宮古島キャンパス・石垣キャンパス・那覇キャンパス）開設式典について、資料に基づき報告があった。

(6) 国際医療拠点の形成について

学長から、国際医療拠点の形成について、現状の報告があり、今後の経過については、随時、経営協議会で報告する旨発言があった。

(7) 平成25年度第3回経営協議会における学外委員からの意見等への取組みについて

総務部長から、平成25年度第3回経営協議会における学外委員からの意見等への本学の取組み状況について、資料に基づき報告があった。

懇談事項

大学のガバナンスについて

学長から、大学のガバナンスについて、資料に基づき説明があり、意見交換を行い、委員から、次の意見があった。

- ・ 大学改革をやっていくためには、フェアな人事評価を行い、改革の原動力になっている人にだけ負荷が掛からないような体制をつくっていかなければならない。
- ・ 国立大学法人化に関しては、デュープロセスをどうやって確保していくかということが課題となっている。
- ・ 大学のガバナンスの問題は、規模の大小や国公立の設置形態の別に、きめ細かく検討・研究していかないといけない。
- ・ 学長のリーダーシップを高めるということと、主たる財源を公財政に依存している団体として、いかにデュープロセスをしっかりとしていくのかということと同時に進めなくてはならない。
- ・ ミッションを達成していくにあたって、現実的に、運営費交付金が毎年減額されていくという財政的な制約の中で、いかに実現をしていくのかということが大きな壁だと思う。
- ・ 大学の教育研究活動あるいは社会還元活動に、学外の人的・物的・資金的な資源をいかに上手に導入していくのか、考えていただきたい。
- ・ 琉大の法科大学院はかなり頑張っており、全国的にも良い状況であるが、法務研究科を巡る世間の風当たりは非常に厳しくて、再編も始まっている。せっかく沖縄につくったのだから、何とか残していかないといけないと思うが、実績なくして声高に言っても始まらない。今の状況を維持するために、琉大に求められているものは何なのかということこそ是非把握していただきたい。
- ・ 総合大学のガバナンスは、教育学部をモデルにすることができるのではないか。教育学部には、全く違う専門分野が10以上あり、高度な専門性をもっている教員から多様な意見を得ることができると思う。